

2010-2011 年度

第 2 回クラブ国際奉仕・WCS 委員長会議報告

RID2660 国際奉仕・WCS 委員会

委員長 小林 澄子

(守ロイブニングRC)

日 時：2011 年 3 月 12 日(土) 9:30~11:30

場 所：薬業年金会館 601 号室

参加者予定数：148 名 (2011 年 3 月 11 日現在)

第 2 回クラブ国際奉仕・WCS 委員長会議は、前日の 3 月 11 日 14 時 46 分、宮城県沖で発生した M8.8~9 の地震の為、岩手県、宮城県、福島県と東北 3 県の沿岸が津波の為壊滅状態の画面が引きも切れず TV に流れ、福島原子力発電所の破損が危惧されるなか、出席者の曇り顔と緊張の中で、開催されました。最初に犠牲になられた方のご冥福と、被害が広がらないことを祈って、全員黙祷の後に気力を奮い立たせて会議が始まりました。

本来は松本ガバナーのご出席を頂くところですが、地区内クラブの周年行事の為、欠席となりました。次に宮田宏章顧問に於かれましては、医師の勧めにより 2 月末日に大阪北 RC を退会され、名誉会員となられた旨、そして国際奉仕部門は最初に手がけた委員会であり、国際的な良い経験ができ、何より楽しいロータリー生活が送れたこと、又今期最後までお務めできず申しわけなくお詫び申しあげますと同時に委員会の益々のご活躍をご期待いたしております。委員会の皆様に宜しくお伝えください。と、丁寧なご挨拶状を頂きまして、委員会冒頭で代読させて頂きました。

宮里国際奉仕担当研修委員も海外のため欠席でしたので、岡部ガバナーエレクトにご挨拶をして頂き開会となりました。

岡部泰鑑ガバナーエレクト 開会挨拶

国際奉仕・WCS 委員会は、任務の性質上、今年度委員長と次年度委員長相互の連携と引継ぎが大切な事であると認識しています。本日は兩名に参加要請をしていますので共に良く研修をして頂きたいと思います。

1、小林澄子国際奉仕・WCS 委員長

2 月末に集計の IM ごとの活動報告書に基づいて今年度活動報告 (資料No.5,6)

日本が国際社会から援助してもらった話 (資料No.7)

敗戦後、海外の民間人や団体からの援助は、戦争責任を厳しく糾弾され、国旗掲揚と国歌斉唱を禁止され、打ちひしがれ落ち込み荒廃していた日本人の心に、「世界の人々に見捨てられていない」と、いう明るい希望の灯を燈し、復興への起爆剤となりました。

ロータリアンが現地にも足を運ぶということは、彼らに希望を運ぶと共に、彼らのお手本になろうとする自分自身の希望のためです。

本日は、地震の被災者の為に募金箱を回そうという意見も有りましたが、ガバナーが対応して下さるのを待ちましようということになりました。海外でも数週間以内に、日本の為に募金箱が回さ

れると思います。

## 2、貴志英生第 2650 地区財団地区事業委員長

2013-2014 年度から開始されるロータリー財団補助金プログラムについて（資料No.11）

私達の地区も「未来の夢計画」が始まる **2013-2014 年度**からは、好むと好まざるに拘らず、全てのクラブが新しい補助金制度「新地区補助金」「グローバル補助金」に基づいて、活動をしなればなりません。そこで、現在パイロット地区として、新しい補助金制度での活動に取り組んでいる状況を踏まえて、プレゼンテーションをしていただきました。

特段の注意点は、2013 年早々にはクラブが事業計画を作成、2013 年 5 月上旬迄にクラブが地区へ申請、2013 年 6 月地区が財団に一括申請、2013 年 7 月財団より地区へ補助金交付、その後、地区よりクラブへ補助金支援という流れを承知して、ロータリー年度をまたがって事業を計画する必要があります。

## 3、川田隆地区財団人道的次年度委員長

国際奉仕活動に関連したロータリー財団補助金プログラムについて（資料No.3,4）

このプレゼンテーションは、次年度 2011 年 7 月から始まる活動のためのものですので、先ほどの 2 年後の「未来の夢計画」と混乱しないようにお願いします。

DDF 予算バランスシートは昨年と変わりありませんが、MG 選定には MG・DDF の仕組み、信頼できるホストパートナー、的確なニーズの把握、現地視察・Face to Face のミーティング、メールによるコミュニケーション等十分な事前準備の基に進めてください。

## 4、上場俊哉地区国際奉仕・WCS 委員

友好クラブ締結までの道のり（高槻東 RC）

会議を重ね指針が見えたら、勇気を持って一步を踏み出すことが締結への必要条件です。いたずらに慎重を期していると、マイナスのイメージや意見が増えてきて、またスタートに逆戻りする羽目になりかねません。友好クラブ締結は国際奉仕の両輪である親睦と奉仕を一步進めるものであり、クラブ活性化に欠かせない要諦です。（資料が必要な方は上場委員まで ueba@hokusetsu.net）

## 5、石田秀地区国際奉仕・WCS 委員 WCS 基金会計報告（資料No.8,9）

資料に基づき報告されました。

## 6、古澤照明次年度国際奉仕・WCS 委員長

ニュースレターにて、RI からの、「WCS プログラムを漸時廃止する方針である」と、いう情報を開示共有しておりましたが、第 2660 地区の次年度の委員会組織としては、WCS の名称は従来どおりで変更しないという方向で決まりました。又、奉仕事業に於ける補助金 DDF・DSG・MG に関しましては、2660 地区は従来どおりで何の変更もしないという表明を受け取りました。地区委員会の名称も変更いたしません。各クラブでも性急に名称を変更する必要はないと思いますが、クラブの裁量にお任せします。

次年度も引き続き MG を推進してください。IM 毎の担当者を決めているので、何でも相談してください。次年度の地区 DDF は 65,000 ドル、クラブからの DDF 申請は 5,000 ドルとします。

6月1日からDDFの申請を受け付け、TRFへの申請は7月1日からです。

未来の夢計画の詳しい事につきましては、4月23日(土)に国際会議場で開催されます地区協議会でご説明いたします。

## 7、質疑応答

Q1：新しい補助金制度の下では、2013年5月上旬迄にクラブが地区へ申請しなければならぬとされているが、申請した案件は全て承認されるのか？(八尾RC)

A1：全て承認されるとは限りません。(小林澄子国際奉仕・WCS委員長)

Q2：現行の理事・役員・委員会構成の基では、5月申請締め切りは時間的に無理があるのではないか？(八尾RC)

A2：その通りです。そのためには次年度から、3年の継続的委員会構成や副委員長をポスト委員長として配置するなどクラブとして委員会構成に工夫をして対応する事が望ましいと思います。(貴志英生第2650地区財団地区事業委員長)

Q3：新しい補助金制度の申請および業務サイクルは国際ロータリー財団の要請ですか、それとも2650地区が決めたものですか？(大阪RC)

A3：米国本部のロータリー財団の要請です(貴志英生第2650地区財団地区事業委員長)

Q4：このようなシステムに変わることがわかっているなら、次々年度まで待たなくても次年度から実行したらどうか？(大阪RC)

A4：準備期間なしには容易ではないことと、現在世界で100のパイロット地区が新しい補助金制度を試しているわけで、不都合のため変更や調整も出てくることもありますので、満を持して今年度は研究に当たります。(岡部泰鑑ガバナーエレクト)

## 8、岡部泰鑑ガバナーエレクト 閉会挨拶

長時間にわたり、熱心な研究会をしていただきご苦勞様でした。

私の次年度、地区ガバナーとしての役目は、RI会長のメッセージを伝えロータリー財団の目標を推進すると共に、地区の為に「未来の夢計画」が始まる2013-2014年度に向けて、出来得る限りの情報収集と精査、整理、システム構築が役割と認識しています。

今年度のGSEスリランカ受け入れは、地震の為急遽延期することが決まりました。先方も了解していますが、再開の時期は未定です。

精一杯努めますので、次年度も皆様、ご協力の程何卒宜しく願い申し上げます。

以上